

東北地方 1か月予報

(2月20日から3月19日までの天候見通し)

平成22年2月19日
仙台管区気象台発表

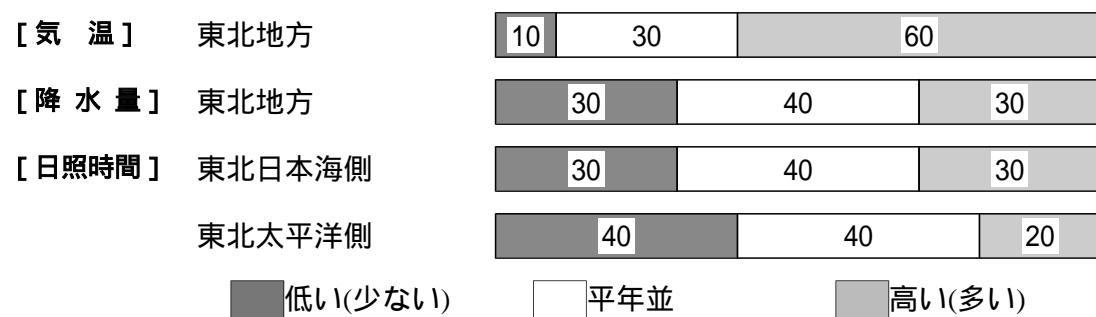
<特に注意を要する事項>

期間の前半を中心に気温が高くなる見込みです。積雪の多いところではなだれに注意してください。

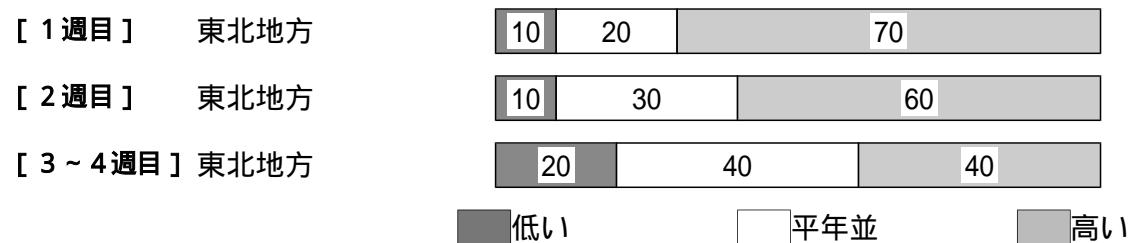
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。
向こう1か月の平均気温は高い確率が60%です。日照時間は東北太平洋側で平年並または少ない確率とともに40%です。
週別の平均気温は、1週目は高い確率が70%、2週目は高い確率が60%、3~4週目は平年並または高い確率とともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 2月20日(土) ~ 3月19日(金)
1週目 : 2月20日(土) ~ 2月26日(金)
2週目 : 2月27日(土) ~ 3月5日(金)
3~4週目 : 3月6日(土) ~ 3月19日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は2月26日
3か月予報: 2月25日(木) 14時
暖候期予報: 2月25日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	0.6	75.9	107.1	-0.5	0.2	1.4
深浦	1.3	70.5	82.3	0.3	1.0	2.1
むつ	0.1	72.5	121.9	-0.9	-0.3	0.8
八戸	0.9	45.3	147.4	-0.3	0.5	1.6
秋田	1.8	86.1	99.9	0.7	1.5	2.6
盛岡	0.3	63.3	143.6	-0.9	-0.1	1.2
大船渡	2.3	66.5	148.8	1.4	1.9	3.0
宮古	1.7	73.9	159.6	0.7	1.3	2.4
仙台	3.3	56.9	159.5	2.2	2.9	4.0
石巻	2.5	52.8	167.1	1.4	2.1	3.2
山形	1.6	61.9	122.3	0.3	1.1	2.5
新庄	0.7	110.5	87.5	-0.4	0.3	1.4
酒田	3.0	95.1	93.3	1.9	2.6	3.7
福島	3.5	59.7	156.0	2.3	3.1	4.3
若松	1.4	59.8	116.4	0.2	0.9	2.3
白河	2.2	53.7	161.5	1.0	1.7	3.0
小名浜	5.1	76.5	171.1	4.2	4.8	5.8

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6 ~ +0.6	83 ~ 111	95 ~ 106
東北日本海側	-0.6 ~ +0.6	90 ~ 108	92 ~ 108
東北太平洋側	-0.6 ~ +0.6	78 ~ 115	97 ~ 105

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.9 ~ +0.9	-0.7 ~ +0.7	-0.5 ~ +0.4
東北日本海側	-0.9 ~ +0.8	-0.7 ~ +0.7	-0.5 ~ +0.5
東北太平洋側	-0.9 ~ +0.9	-0.7 ~ +0.7	-0.4 ~ +0.5

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成22年2月19日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(2月20日～3月19日)：

冬型の気圧配置は長続きせず、時々低気圧や前線の影響を受けるでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。なお、期間の前半を中心に気温の高い状態が続く見込みです。積雪の多いところではなだれに注意してください。

平均気温は高い確率が60%です。

1週目(2月20日～2月26日)：

東北日本海側は、気圧の谷や寒気の影響で雪や雨の降る日がありますが、期間の中頃は晴れる日があるでしょう。東北太平洋側は、おおむね晴れますか、期間のはじめと終わりは、気圧の谷の影響で雪や雨の降るところがある見込みです。

平均気温は高い確率が70%です。

2週目(2月27日～3月5日)：

気圧の谷が数日の周期で通過し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

平均気温は高い確率が60%です。

3～4週目(3月6日～3月19日)：

冬型の気圧配置は長続きせず、時々低気圧や前線の影響を受けるでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

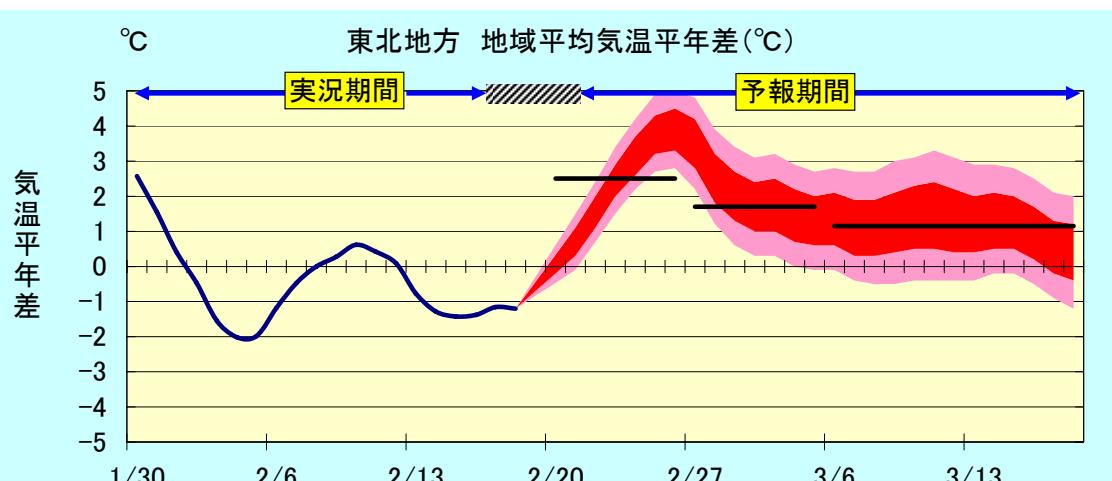
平均気温は平年並または高い確率とともに40%です。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	9.9日	1.7日	2.4日	5.8日
東北太平洋側	18.0日	4.3日	4.4日	9.3日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と予測資料

地域平均気温平年差の予測資料では、週別の平均気温は、1週目は平年を大きく上回り、2週目、3～4週目は平年を上回る予想となっている。



・グラフの値は全て7日間平均値であり、横軸の値は平均期間の中日。

・予報期間には7日間平均気温の予測に対する信頼の程度が40%の幅(濃い赤の範囲)と信頼の程度が70%の幅(濃い赤と薄い赤の範囲)を表示。

・水平な3本の実線は、予報期間の1週目、2週目、3～4週目の平均を表す。

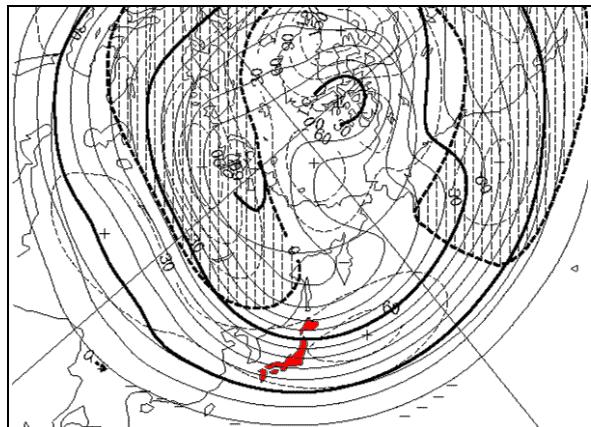
・ハッチの期間は、発表日の観測値が確定してないため、観測値と予測値に基づいて結んでいます。

3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500hPa 予想天気図)

1か月平均：日本付近は、日本の東に中心をもつ正偏差に広くおおわれる。高温が予想される。

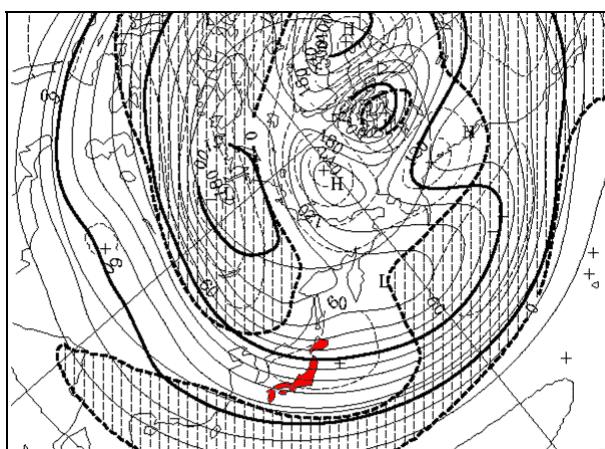
1週目：日本付近は、日本の東に中心を持つ正偏差におおわれる。850hPa 気温予想図(図略)でも東北地方は3℃以上の正偏差におおわれており、高温が予想される。

2週目：日本付近を含む中緯度帯は、日本の東に中心を持つ正偏差に広くおおわれる。850hPa 気温予想図(図略)でも東北地方は3℃以上の正偏差におおわれており、高温が予想される。

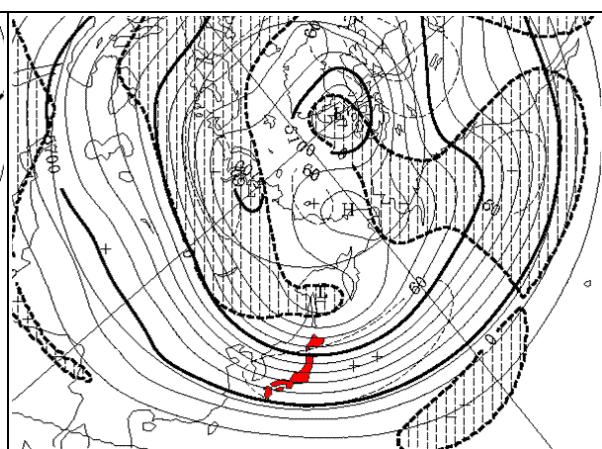


1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1,2週目と同じ
ただし平年差の間隔は30m毎)



1週目平均 500hPa 予想天気図



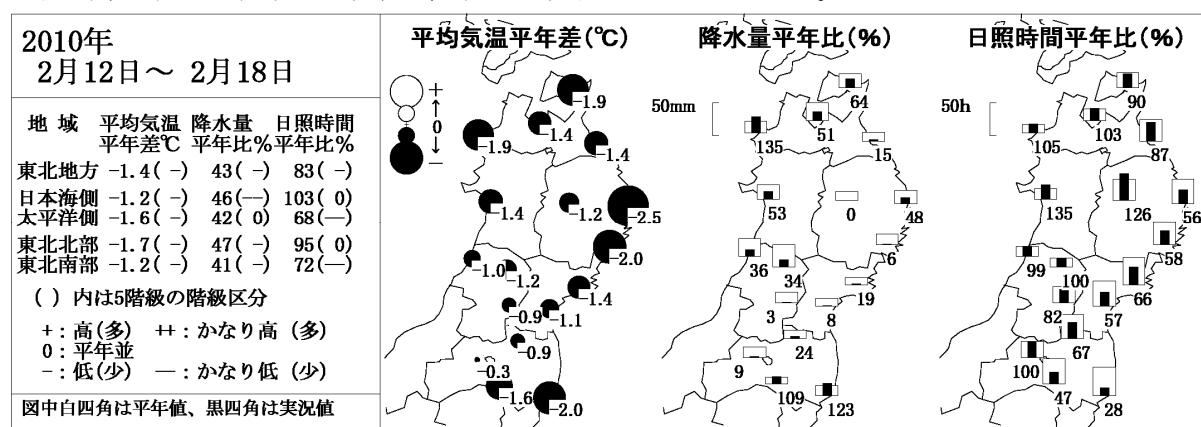
2週目平均 500hPa 予想天気図

実線は、等高度線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）
陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間（2月12日～2月18日）の天候の経過

この期間、低気圧や気圧の谷が周期的に通過し、低気圧や気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となった。期間中高気圧におおわれて晴れた日もあったが、気圧の谷の影響で曇りの日が多く、日本海側北部を中心に雪の日もあった。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）